

ゴミ焼却熱の活用と利活用を学ぶ分科会 代表 村田 泰志



トーヨーバイオメタンガス発電所見学

当分科会は、淡路島内にある3つのごみ処理場が近い将来合併する可能性が高いことから、一つの処理場になるのであればその工場から発生する処理熱を有効利用できないか調査する分科会です。

まずは、他の地域で実際に有効利用している施設を見学に行き、調査しました。佐賀市清掃工場では、ごみを燃やし排出される二酸化炭素を近隣のビニールハウスに送り農業に有効利用しています。養父市トーヨーバイオメタンガス発電所では、発電して発生した副産物を堆肥や液肥にして利用しています。今後は、エネルギーだけではなく、農業にも有効利用できる可能性を提言していきたいです。

淡路島コミュニティづくり分科会 代表 中舎 義博

淡路島にも移住のお世話をするNPO法人がある事を知り、NPO法人の活動が手薄な「移住者と島民の交流を深めること」を我々の分科会の目標にしました。初年度は、日頃から移住者との接点を持っているNPO法人代表の方々と、移住者を囲んで移住体験、移住者の現状、島の問題など伺い、意見交換を実施しました。

今年度は、移住者に声かけて各3市で交流会を計画しましたが、コロナ禍で移住者との交流会は叶いませんでした。その代わりに、分科会メンバーとオンラインで交流会を実施しました。今後も、身近な場所からコミュニティを作って交流を図ってまいります。



移住勉強会

全体の活動

全体会の開催

令和3年11月28日(日)に、第6回全体会で環境分野の講演会をオンラインで開催しました。淡路景観園芸学校の先生より「淡路島における生物多様性」について、南あわじ市社会福祉協議会より「フードドライブの取り組み」について講演いただきました。



第6回全体会講演の様子

最終報告会の開催

令和4年3月19日(土)に、ビジョン委員会最終報告会を開催し、2年間の活動報告と、新しく策定した将来ビジョンをテーマに今後について語り合うグループセッションを実施しました。これまでの活動を振り返るとともに、思い描く未来に動き出すために、一人一人がこれからのアクションを考えました。



最終報告会の様子

環境立島あわじ

～人と自然の豊かな関係をきずく“公園島”へ～

淡路地域ビジョン委員会Facebook

検索



03淡路@2-011A4

発行／淡路地域ビジョン委員会

事務局 兵庫県淡路県民局交流渦潮室交流渦潮課

〒656-0021 兵庫県洲本市塩屋2-4-5 TEL.0799-26-2125 FAX.0799-24-6934

E-mail awajizu@pref.hyogo.lg.jp

第10期淡路地域ビジョン委員会

令和3年度

活動の記録

実践目標 1

誰もが役割を持ち、地域の宝が生きる島づくり

実践目標 2

個性と活力にあふれ、新たな価値を生み出す島づくり

実践目標 3

自然とのつき合い方を再考し、その恵みに支えられた島づくり

実践目標 4

経済、社会、環境が調和し命をつなぐ島づくり

淡路地域ビジョン委員会では、「環境立島あわじ～人と自然の豊かな関係をきずく“公園島へ”～」という目標を実現するために、4つの実践目標を掲げ、住民自らが淡路島の未来はどうあるべきかを考えながら、さまざまな活動に取り組みました。

写真提供：(一社)淡路島観光協会

「コロナ禍を超えて」

第10期淡路地域ビジョン委員会は、53名のメンバーで令和2年4月に発足し、「環境立島あわじ」の実現をめざして個性あふれる9つの分科会に分かれて活動を進めてきました。

活動期間の過半は、新型コロナウイルス感染が日本列島に広がる時期と重なり、活動の自粛を余儀なくされましたが、感染予防を徹底しつつ、オンライン会議を活用するなど、工夫を凝らして活動を行いました。健康、安全、環境、地域共同体の重要性を再認識しました。

一方、コロナ禍で、淡路島の魅力が、日本中から再認識された時期でもありました。地域ビジョン委員会活動は今期で終了となります。2050年をめざした新ビジョンが策定され、任期を終えた私たちビジョン委員も、それぞれの立場で新ビジョンの実現に努力したいと願っています。



第10期淡路地域ビジョン委員会 委員長 山本 益嗣

分科会の活動

第10期淡路地域ビジョン委員会では、
9つの分科会に分かれて活動しました。

防災分科会

代表 森崎 義彦



避難所HUG体験

花と緑のワークショップ

1年目は、県民局・洲本市・南あわじ市・淡路市の防災担当者との意見交換会を行い、防災の現状について学びました。2年目は、実践目線でコロナウイルスや、集中豪雨など悲惨な現状に、改めて災害の怖さを実感しました。

災害の要である「避難所」では、チームワークが求められます。そこでスムーズな運営を行うために、2年目は、「マイ避難カード」の書き方、「段ボールベット組み立て」などを学びました。

11月にはイベントで島外来訪者へアンケート調査を行った結果、『南海トラフの地震津波』の関心の高さが窺えました。観光の島淡路で共に命を守るには、近隣との情報共有が欠かせないと感じました。今後も、地域で防災意識向上のため活動していきます。

淡路五山と歴史巡り分科会

代表 堀井 裕右

当分科会は、古くから「山岳信仰」の山として知られる淡路五山(諭鶴羽山、先山、柏原山、東山寺、常隆寺山)を中心に、淡路島の知られざる歴史を掘り起こすとともに、新たな観光資源の開発に繋げることを目的に活動いたしました。

令和2年11月に先山、令和3年1月に諭鶴羽山(表参道)、10月に柏原山、11月に東山寺、令和4年1月に常隆寺山、2月に諭鶴羽山(裏参道)の五山全てに登ることができました。

先山は、古事記において日本で最初にできた山とされています。また、諭鶴羽山は権現信仰、常隆寺山は早良親王の配流の地です。柏原山は洲本市内の最高峰かつ淡路島で2番目の高さを誇り、東山寺の本堂と山門は淡路島最古の木造建築物です。登山を通して五山の歴史を学ぶことができました。



柏原山登山



分科会メンバー

健康・福祉分科会

代表 顕谷 恭年



卓球バレー体験会

ハイドロカルチャー体験会

誰もが豊かで充実した人生を目指して、障害者スポーツ(卓球バレー)と園芸療法の2本柱で活動してきました。基本、人は身体を動かしたい、皆と喜びを共有したいものだと思います。そして、誰もが余暇を楽しみ生き甲斐のある生活をしたいと願っています。しかし、高齢者や障害者等は多くの制限を受け、余暇活動の選択の幅が狭められている現状があります。自宅・学校・職場の往復では新しい体験や仲間を作るチャン

スが少なく、人生の広がりや豊かさを求めることは期待できにくいです。

そこで、障害者スポーツや園芸を用いた活動を通じて、多くの人との出会い、経験を積み、視野を広げ充実した時間を皆で一緒に作り出せればと考え実践してきました。これからも淡路島で継続して活動していきます。

農林水産分科会

代表 堀田 修司

農林水産分科会では、淡路島の竹林保全を啓発すること、淡路島の農産物の開発やPR、外来生物の周知・防除に向けて活動しています。

2月には、農産物の開発・ブランド化に向けて、大野地区の菜種油を使ったパスタソースの商品化に向けてパスタソース研修会を開催しました。

また、外来生物の駆除に関しては、イベントでナガエツルノゲイトウ、ナルトサワギク、ナラ枯れのチラシ配布を行いました。また、ナガエツルノゲイトウ防除体験、ナガエツルノゲイトウ防除作業に参加しました。これ以上外来生物を繁殖しないよう今後も活動を続けていきたいと思ひます。



パスタソース試食会

SDGs推進分科会

代表 塩田 宏紀



SDGs鉛えんぴつ

まずは子ども達からSDGsの認知度を高めるべく、淡路島の里山整備で出てきた檜の材で作った鉛筆にSDGsの文字を入れ、SDGsの授業を進めている教育現場等に配布しました。鉛筆を制作している方々の活動内容を知ってもらうとともに、SDGsの認知度を広げることにつなげています。

また、島内のSDGsに関わる人々を紹介する冊子「KUWA」を制作しました。今後は、渦潮世界遺産に向けた活動などと協力して、ノルウェー王国と淡路島の教育現場をSDGsで繋ぎ、淡路島での持続可能な社会の構築に貢献出来ればと考えています。また、教育現場と連携してSDGsの活動を進めるために、洲本実業高校と一緒に授業を行おうと計画しています。

淡路島の自然の豊かさを学ぶ分科会

代表 行徳 昌則

淡路島の豊かな自然を島内の若者と一緒に体験しながら学び、地域への愛着を深めて、各地の環境活動に繋げていく事を目的として活動を行ってきました。昨年度は、島内の兵庫県立淡路景観園芸学校と連携して、キャンパス見学会を行いました。今年度は、新型コロナウイルスの影響で実践活動が行えませんでした。が、「豊かな自然とは何か」を模索して、淡路島は、歴史に培われた人々の営みがつくる里山、里地、里海の自然環境が豊かだと認識することができました。

3月末にはその典型的な自然環境として常隆寺山、石田地区の棚田、明神崎を選定して、淡路景観園芸学校の先生の案内で自然観察会を行います。今後も豊かな自然環境を学び、地域の環境活動に繋げていきたいと考えています。



里地風景(生田地区の棚田)



里海風景(岩屋海岸)

鳴門海峡の渦潮普及啓発分科会

代表 関口 功



3海峡クリーンアップ大作戦

コロナ禍の影響もあり、世界遺産登録への島民の機運を高める取り組みがなかなか進められない現状のなか、本年度で3回目となる明石海峡・鳴門海峡・紀淡海峡をめぐる「3海峡クリーンアップ大作戦」に参加しました。鳴門海峡の海岸清掃に集まった参加者は約500名で、小学生から企業関係者、ボランティア団体の高齢者の方など老若男女様々な年代の人たちが参加し、環境美化の活動を通して世界遺産登録への理解を深めることができました。

また、夜間の大潮の渦潮をナイトクルーズで体験しました。今後は、自分たちの目で見た夜の渦潮の素晴らしさを出前講座等で広く発信していきたいと考えています。



ナイトクルーズ